

40th ANNUAL MEETING of the ISPN in SYDNEY

あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科 加藤 美穂子

ISPN の 40th ANNUAL MEETING は、Charles Teo 会長のもと、2012 年 9 月 10 日から 13 日、早春のシドニーで開催されました。多岐にわたる小児神経外科領域のトピックスを凝縮した 4 日間となりました。



日本からは口演 13 題 (Endoscopy 3 題、Dysraphism 4 題、Craniofacial 1 題、Oncology 3 題、Vascular 1 題、Brain Malformation 1 題)、ポスター16 題 (Dysraphism 3 題、Craniofacial 3 題、Hydrocephalus-Endoscopy-を含む 3 題、Oncology 2 題、Spine 1 題、Vascular 1 題、Brain Malformation 2 題、Trauma 1 題)の発表があり、Nurse Symposium にも 1 題の演題が出されました。世界の国や地域における医療体制や経済状況の違いをあらためて認識し、手術適応の違いやそれに伴う治療成績の違いに多くのことを学ぶ機会となりました。個人的には、Distraction osteogenesis に関する発表が、私の参加した 2 年前の ISPN in Jeju より随分多かったという印象をもちました。

学会初日は History 等の Presentation で Program がスタートし、その後 Hydrocephalus(Endoscopy を中心に)、Spinal Dysraphism そして Craniofacial に関する Presentation が続きました。夜は当初プログラムにはなかった会食がチャイニーズレストランで開かれました。初日の夜から円卓を囲んで交流が盛んに行われました。

2 日目は再び Hydrocephalus、その後 Epilepsy and Functional に関する Presentation で、シャント手術におけるスマートフォンを用いた近位管の適切な留置法など社会のトレンドを取り入れた発表もありました。午後の Program『Sports Afternoon』では、学会行事としてカヌーやゴルフのツアーが企画されておりました。参加された先生のお話では、早春のシドニーはマリンスポーツには少々寒かったようでした。その他、クルージングでシドニー郊外に出かけたり、シドニー観光として水族館や海事博物館、オペラハウスなどを散策したりと、参加者それぞれが学会中の小休止を思い思いに楽しく過ごされたようでした。夜には日本から参加さ

れた先生方と総勢 20 名以上でステーキハウスに出かけました。メニューは牛が飼育された条件によってことなり、グラスフェッド(牧草飼育)とグレインフェッド(穀物飼育)、そして各々の飼育期間が記載されていました。3種類のステーキをすべて食べたいという希望がかない、日本人らしく『少しずつ、全種類』をいただきました。やはりグレインフェッドがおいしいと思いました。

3 日目の夜はオペラハウスの対岸にあるルナパーク内で GALA DINNER が催されました。会場では Tadanori Tomita 先生から Kyu-Chang Wang 先生へのポンチョセレモニーが行われ、食事の後はオーストラリアでは有名だというシンガーが登場し、世界中の小児神経外科医が大いにダンスに興じていました。



最終日、『ISPN2012 SYDNEY AUSTRALIA』と水色のロゴが入った日本人の頭にはやや小さすぎる白い帽子をかぶり、スーツケースを片手に全ての Program を終えた会場から立ち去る Charles Teo 会長の姿がありました。



学会中は我が国と異なる治療への取り組みや考え方を学べることはもちろん、我が国の小児神経外科領域を牽引される先生方と交流を持つことができる貴重な時間になりました。今後は、来年の Mainz(Germany)、再来年の Rio de Janeiro(Brazil)に向かって目標を定め精進したいと思います。

(2012年12月28日)